

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 30 日作成)

委員会名	文化遺産災害対策小委員会	主 査 名：足立 裕司
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内 秀信
設 置 期 間	2002年 4月 ～ 2006年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	・地震、台風、火災等、つねに災害にさらされている歴史的建造物の被害を最小限にとどめるための事前事後の準備と体制を検討し、また事後の適切な復旧のための方策の提供を図る。	
委員構成 (委員名 (所属))	専門分野の知見が重要となるために、歴史を専門とする者に加え、文化財担当、構造 (木構造、RC、耐震、組石造等)、地震、火災、風、消防等の分野等から構成する。藤田香織 (東京都立大学) 稲垣景子 (横浜国立大学) 後藤治 (工学院大学) 長谷見雄二 (早稲田大学) 益田兼房 (東京藝術大学) 村田健一 (文化庁) 他	
設置 WG (WG 名：目的)		
2004 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	「文化遺産から発想する防災体制—阪神大震災の経験は活かされたか—」(2005年1月21日(金) 約80名) 「文化遺産保護—領域を越えた連携と課題」(2006年2月28日(月)、約40名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>「文化遺産から発想する防災体制—阪神大震災の経験は活かされたか—」は国連防災会議に併せて行ったシンポジウムであり、14人の専門を異にする研究者がそれぞれの立場から文化遺産の災害対策についての研究発表を行った。他領域を含めて、直接的に今後の文化財防災を巡る問題点が抽出できたことで意義があった。</p> <p>「文化遺産保護—領域を越えた連携と課題」では建築と土木という領域を異にする岡田恒男(財団法人 日本建築防災協会理事長)、土岐憲三(立命館大学教授 歴史都市防災研究センター所長)を招き、それぞれの分野からの歴史遺産の保護についての問題点を提起して頂いた。経験に富む両先学の提起された内容は意義深く、文化遺産災害対策小委員会のメンバーとの質疑応答では、問題点の核心を抽出する機会となった。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 今年度は、上記の通りかなり大きなシンポジウムを企画したこともあり、相当な達成度が見込めたと思われる。今後、本小委員会の当面の目標としている緊急マニュアルに向けた問題点の整理もできていることから、平成17年に向けた道筋が得られたと考えられる。
その他評価すべき事項	